



世界の 人びとのための JICA基金

2018年



独立行政法人 国際協力機構

世界の人びとのためのJICA基金

2015年9月の国連サミットにおいて「SDGs」として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。SDGsは2016年から2030年までの国際目標として、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。



「世界の人びとのためのJICA基金」(JICA基金)は、SDGsの達成に向け、多くの方々からお寄せ頂いたご寄附を財源に、開発途上国・地域で活動を行うNGO/NPO等の活動を支援しています。

2017年度も、貧困や飢餓に苦しむ人びとの生活向上、医療や教育の提供、環境問題、災害復興支援に向けた活動の提案を広く募集し、下記12件の活動を実施しました。

団体名	国名	事業名
一般財団法人 カンボジア地雷撤去キャンペーン	カンボジア	米作に向かない貧困地域での畜産業による収入獲得を目指すためのスキルアップ推進事業
ハイチの会	ハイチ	「自立した学校給食の継続」を目的とする農産物生産支援事業
Upple	カンボジア	コッカエル村における貧困層の子どもたちへの伴奏型教育支援事業
EDAYA	フィリピン	フィリピン僻地農村出身の若者を対象とした、リーダー育成のための教育と生活向上を視野に入れた就職・起業支援
特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか(TIFA)	ネパール	サクー村の訓練センターの拡充と人材育成
特定非営利活動法人 LOOB JAPAN	フィリピン	イロイロ市貧困地区における裁縫事業と教育支援
特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター	ベトナム	フェアトレードを通じたベトナムと新潟のハッピーリンクプロジェクト
NPO法人 Treasures of The Planet	ラオス	少年少女たちのための交通安全教育ビデオの制作と上映
一般社団法人コモン・ニジェール	ニジェール	クオラテギ村の寺子屋を軸とした生活改善に向けたコミュニティ調査事業
特定非営利活動法人 アジア植林友好協会	インドネシア	バリ島火山爆発被災地の水源涵養林再生植林事業
NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)	日本	日本のNGOの安全管理者向け研修の実施環境整備事業
市民ネットワーク for TICAD	日本	NGOのパワーをTICADへアフリカ啓発・提言事業

団体活動報告



カンボジア

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン（CMC）

：福岡県福岡市

米作に向かない貧困地域での畜産業による収入獲得を目指すためのスキルアップ推進事業

団体ホームページ：<http://cmc-net.jp/>

1 貧困をなくそう



畜産講師を招いたタウンミーティング
(写真:CMC)

<事業紹介>

カンボジアの地雷原にある村の生活向上を目指す事業です。プロジェクト実施により、村人同士で話し合う習慣が付き、土地の争いが減り、他の農家と助け合う行動が見られるようになりました。プロジェクトで行った村人への講習を通して、貯金に対する概念や、家畜への衛生という概念を習得したことにより、少しずつ村人の生活が改善に向かっているところです。

<団体からの声>

今回のプロジェクトで購入した牛や豚は現在順調に育っています。これもプロジェクトにおいて村人たちがミーティングや学習を重ねた成果の賜です。最近では、畜産以外でも積極的な協調が行われており、例えば村人たちが自主的にタウンミーティングを行い、自分たちでお金を出し合いながら政府から補助金を調達しました。その結果、村の荒れた道路を舗装するプロジェクトを計画し、実行段階に来ており、これも本事業の成果の表れと認識しています。



ハイチ

ハイチの会：愛知県名古屋市

「自立した学校給食の継続」を目的とする農産物生産支援事業

団体ホームページ：<http://haitinokai.com/>

2 飢餓をゼロに



<事業紹介>

ハイチの会は、一日一食を得ることさえ難しい地域もあるハイチで、「農業で今日の命を繋ぎ、教育で明日のハイチを創る」支援活動を続けてきました。本事業では、種、苗、ヤギ、ウシ等を購入し、農業指導員を派遣して、農畜産物の生産向上と自立した学校給食の継続を図りました。

<団体からの声>

ハイチは8割の人々が1日2ドル以下の生活で暮らしており、約5割が慢性的な栄養失調です。「ハイチの会」は、特に貧しいボナビ村に、農園と学校を建設して1日1食が得られるよう「農業で今日の命を繋ぎ、教育で明日のハイチを創る」支援をしています。

本事業では、支援に頼らずに継続して自立した学校給食を行う目的で、種や苗、ヤギやウシ等を購入し、農畜産物の生産向上を図る現地の人々の努力に協力をしました。子どもたちは給食時間になると途端に静まり、脇目も振らず黙々と食べます。目の前にあるこの1食を食べることに真剣にならざるを得ないのです。給食継続にご寄附ご協力くださる皆様に子どもたちと共に感謝申し上げます。



農業指導・キャッサバ植付 (写真:ハイチの会)



Upple : 福岡県北九州市

カンボジア コッカエル村における貧困層の子どもたちへの伴奏型教育支援事業

団体ホームページ : <https://upple.jimdo.com/>

4 質の高い教育を
みんなに



住民のごみ収集活動(写真:Upple)

<事業紹介>

カンボジアの村で、英語・日本語などを教えるフリースクールを運営するNGO団体CFTOに対して、新しい学び(環境教育、PBLなど)の提案や資金調達への試みなど、自立した塾の運営の基盤を作る支援を行いました。その結果、資金源となっていたスタディツアーの参加者は200%増。商品開発にも取り組めました。また、CFTOに携わる高校生の発案でゴミ拾いプロジェクトが行われるようになり、塾の周辺2Kmについてはゴミが減少するなど、学生の成長とともに環境に対する活動の成果が確認されており、事業の効果が実感できています。

<団体からの声>

私たちが通うカンボジアの村、コッカエル村の子どもたちは、決して恵まれた生活環境ではないに関わらず、キラキラと

した笑顔でいつも「Hello!」とわれわれ日本人に挨拶をしてくれます。そんな子どもたちの学びと居場所を創ってきたNGO団体CFTOが、国の道路工事による立ち退きによって経営難となっていました。

今回、みなさんからのご支援をいただき、代表のSokPharith氏は「本当に助かる！ありがとうございます」と何度もおっしゃっていました。われわれはこれからも伴走型での支援を続けます。キラキラとした子どもたちの笑顔が絶えないように....



EDAYA: 東京都大田区

フィリピン僻地農村出身の若者を対象とした、リーダー育成のための教育と生活向上を視野に入れた就職・起業支援

団体ホームページ : <http://edaya-arts.com/>

4 質の高い教育を
みんなに



<事業紹介>

EDAYAでは、フィリピンのルソン島北部出身の少数民族の若者を対象とし、地域の発展に貢献するリーダーを育成するプロジェクトを行いました。

異なる州出身の5人の若者が、社会起業やデザインシンキング、ソーシャルファイナンス、IT、プロジェクトマネジメント等の授業を受け、経験を積みました。最終的には、5人全員が自分たちの地域に貢献する社会起業のプランを作成し、事業のプロトタイプを持つまでに成長しました。

<団体からの声>

この度は私たちの事業に寄附くださり、本当にありがとうございました。5人の若者たちは、半年間の教育プログラムを経て、見違えるように成長しました。恥ずかしがり屋で、人前で話すことすらできなかったのが、今では自分に自信を持てるようになり、自然と人が周りに集まってくるような人となりました。また、学校では教わらないような、より実践的な知識を得たことは、彼らが今後どんな仕事を選ぶにせよ、きっと役に立ってくることでしょう。今から彼らの未来が楽しみです。さらに、最初はプログラムが与えてくれるものに半信半疑であった若者たちが、最後にはEDAYAの教育プログラムの2期生になることができたことを誇りに思い、プログラム終了後も何かと顔を出してくれているのは、本当に嬉しいことです。



通常授業の様子(写真:EDAYA)



特定非営利活動法人国際交流の会とよなか(TIFA) :大阪府豊中市

サクー村の訓練センターの拡充と人材育成

団体ホームページ : <http://tifa-toyonaka.org/>

4 質の高い教育を
みんなに



<事業紹介>

ネパール・サクー村農村女性の生活向上のための活動の活性化を目指し事業を実施しました。

基金により、伝統織物(ダカ織)と縫製の技術を高めるため経験者を訓練所へ派遣し、女性たちはより良い作品を作って賃金を得、後輩に教える自信をつけました。また、一般の村の女性への無料公開講座を開き、期待以上の女性が自主的に集まりました。教育の機会に恵まれなかった、現地のより貧しい農村女性たちが積極的に参加し、3ヶ月の訓練後の修了式では、修了書を手に、特にミシン縫製への意欲を見せていました。市場で売る作品にはまだ届きませんが、自分の物を縫い、自信をつけています。今後、より多くの女性の作品が収入源となり、生活向上に繋がっていくことを目指していきます。

<団体からの声>

この度は、ネパール・サクー村農村女性支援活動へ、ご寄附いただきましてありがとうございます。サクー村は、2015年の大地震で多くの家屋が崩壊し、作業者の内、家族を失った人もいます。復興は道半ばですが、女性たちは、家事と畑仕事に精を出しながら、作業所で織機やミシンを使って作品を作り、僅かな賃金を得ながら、努力しています。基金により、村の最貧層の無教育の女性たちが作業所での公開講座に参加し、生き生きとして、学ぶ喜びを経験しました。はじめてミシンで作った作品は、市場には出せないものの、自分たちで交換し合い、祭りに着ていったそうです。修了書を手に、今年も続けて講座に参加したいと意欲を高めています。



作業場で励む訓練生たち(写真:TIFA)



特定非営利活動法人 LOOB JAPAN: 東京都墨田区

イロイロ市貧困地区における裁縫事業と教育支援

団体ホームページ : <http://loobinc.com/>

8 働きがいの
経済成長も



裁縫トレーニングの成果品とともに
(写真: LOOB JAPAN)

<事業紹介>

フィリピン・パナイ島では先住民の多くが、不法占拠者または路上で暮らしてきた経験を持ちます。本事業では女性への裁縫研修と子どもの教育支援を実施しました。

女性達は研修で、「貧困から脱出するために必要な労働観(Work Ethic)とチーム管理」を学び、その後、身近にある古紙や廃材から商品を作るノウハウを習得しました。また子ども達は給食配給を通じて栄養摂取や衛生管理の大切さを学びました。

貧困の中では家族が栄養を取ることが最優先で、就学や衛生面は二の次となりがちです。この支援で母親と子どもに生活の質を改善するための知識を普及することができました。

<団体からの声>

世界の人びとのためのJICA基金から事業支援を受け、LOOBの現地スタッフおよび日本人インターンは先住民の再定住区に住み込み、コミュニケーションを丁寧に取りながら

活動を進めることができました。パナイ島に離散し、社会の最貧困層に置かれていた先住民族ですが、このように教育と職を得ることで一步一步、誇りを取り戻し、共同体を再生していけると喜んでいきます。これからも信頼関係を築きながらコミュニティ開発を行っていきますので、応援よろしくお願いたします。



特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター：新潟県新潟市 フェアトレードを通じたベトナムと新潟のハッピーリンクプロジェクト

団体ホームページ：

<http://nvcniigata.wixsite.com/nvcjapan>

8 働きがいも
経済成長も



寄附したロックミシンでかがり縫いができた様子
(写真：NVC)

<事業紹介>

ベトナムの孤児や貧困家庭の子供が暮らすシェルター利用者の子供たちが、将来、自立できるように縫製技術を取得することを目的とした事業です。JICA基金を使い、シェルターにミシンを導入した他、指導用DVDを作成し、自分たちで学べる仕組みを整えたことで、子供たちは縫製の技術を身に付けることができました。将来の夢を考えたこともなかった子供たちが、この事業を終えた時に「デザイナーになりたい」「服飾関係の仕事につきたい」と夢を語るようになりました。

<団体からの声>

ある女兒にインタビューをしたところ、「私の家は貧しかったため、洋服を買ってもらったことなど無かった。親に服を買って欲しいとねだることすら考えられなかった。しかし、今は違う。私は、自分で自分の服を作ることができる。」と自分の力で生きていくための一歩を踏み出した喜びを語ってくれました。また、自分の作った服が日本の人たちに買ってもらえるかもしれないという想いが、より

一層子供たちの今後のやる気につながっていると実感できています。今後も、単発の支援ではなく、シェルターの子供たちの成長に寄り添いながら活動を展開していきたいと思っております。



NPO法人Treasures of The Planet:長崎県長崎市 少年少女たちのための交通安全教育ビデオの制作と上映

団体ホームページ：

<https://treasuresoftheplanet.org/home/>

11 住み続けられる
まちづくりを



<事業紹介>

発展に伴い交通事故死者数が増加しているラオスで、交通安全教育を行うことを目的とした事業です。

最初は子供たちにわかりやすく面白いビデオを作れば良いと思っていましたが、ラオスでは、ビデオ上映に情報文化環境省の許可が必要なことがわかり、現地スタッフの協力を得て、無事に許可を得ることができました。

日本国内で簡単にできることが、外国ではそうはいかないことがあり、早い時期に現地調査を行い、現地スタッフとの連携をしっかりと行うことの重要性を学びました。現地の劇団員が上映会の進行係を務め、子供たちの注意を引き付けるインパクトのある上映会を開催することができました。

<団体からの声>

ラオス国内ではインフラが進み、道路が舗装され、自動車の数は増加しているのに、交通事故対策は進んでいません。特に10代後半から40代の男性が事故にあうケースが多く、貧困層を直撃する大きな問題になっています。日本が1960、70年代にかけて経験した悲痛な交通事故の悲劇を開発途上国の人々が繰り返さないために、日本から交通安全教育の重要性を発信することは、意義あることだと実感しています。ご協力ありがとうございました。



ビデオ撮影現場(写真：Treasures of The Planet)



一般社団法人コモン・ニジェル：茨城県守谷市

クオラテギ村の寺子屋を軸とした生活改善に向けたコミュニティ調査事業

団体ホームページ：<http://www.comment-niger.org/>

11 住み続けられるまちづくりを



<事業紹介>

ニジェールの村の寺子屋を軸とした村全体の経済的底上げと教育意識の向上を目標としています。

本事業では、子供達の就学を阻む要因や、村の生活向上と安定に足りない要素は何かという調査を行いました。その結果、衛生的な環境やインフラ、弱い経済力が挙げられましたが、それらを改善するための教育が一番必要だと答えており、暮らしを改善したいという意欲がある・前向きであるということが分かったことは大きな収穫でした。

<団体からの声>

皆様のご支援、誠にありがとうございます。ニジェルの子供も達は決して毎日を悲観して過ごしてはいません。しかし、自分の親や村の大人たちと違う道を歩む選択肢もまた与えられていません。我々のスタッフが村に赴くたび、子ども達は「寺子屋はずっと続けてくれるよね？」と聞いてくるそうです。こ



アンケート調査についての説明会
(写真:コモン・ニジェル)

のプロジェクトの目標は、彼らの自立です。ずっと続けなくて済む事を願っています。でも、子ども達の言葉には私たちの方が支えられる思いです。子ども達と村人の気持ちや教育省の協力に皆様のご支援をつなぐことができ、嬉しく思います。ニジェルを背負う子ども達が国の未来を切り拓いていく力をつけられるよう、今後も努めます。



特定非営利活動法人アジア植林友好協会：東京都西東京市

バリ島火山爆発被災地の水源涵養林再生植林事業

団体ホームページ：<http://www.agfn.org/>

15 陸の豊かさも守ろう



植林木、一本一本の周囲に土を散布
(写真:AGFN)

<事業紹介>

インドネシアのバツウール山の1849年の火山爆発で被災し、158年も放置されてきたために、島民の生活用水でもある「バツウール湖」の水位が2m余りも低下し危機的な状況になってきました。その対策として、バリ州政府から植林の協力の要請があり、2007年より水源涵養林の再生植林に取り組んできました。過去9回の火山爆発のうち、1963年に被害のあった土地への植林が2015年から始まりました。現場は、火山礫の堆積した「土」のない厳しい環境でしたが、試行錯誤を繰り返し、火山礫堆積地に8000本のアンププという木を植えました。そのうちほぼ80%が根付いていますが、それらの木の成長を確実にするために山土を散布しました。この施工により、自然の復元力を発揮する環境づくりの効果が期待できます。

<団体からの声>

植林活動現場は、過去9度の火山爆発の被災で、森林植生が失われ放置されてきた厳しい環境で、地元では、植林を諦めていた土地です。

2007年から2014年は、1849年に被災し159年間放置されてきた土地で植林、2015年からは一層厳しい状況の1963年の被災現場で植林を実行しました。溶岩礫堆積地に植穴をつくり、客土し、植林しています。黒い溶岩台地で、乾期の極度の乾燥から植林木を保護し、草木がある環境を作るために、今回、JICA基金を活用しました。現地の人々からは、不可能と考えられてきた厳しい環境で、木を植え、育てていることに驚きと感謝の念が表されています。この活動に学び、地元の高校生なども一層、積極的に植林に参加してくれています。



NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS):東京都新宿区 日本のNGOの安全管理者向け研修の実施環境整備事業

団体ホームページ: <http://janiss.net/>

16 平和と公正を
すべての人に



<事業紹介>

開発支援の事業地においてもより高いレベルの安全管理が求められている中、国連や海外の研修機関が提供するNGO向けの研修は通常高額であり、日本のNGOでは研修の機会が限定されていました。

本団体は、日本において高いレベルの安全研修を開催し、地方のNGOにも研修の参加の機会を提供することができました。また、安全管理の研修素材を日本向けに改編し、安全研修を行う事ができるトレーナーを育成しました。

<団体からの声>

2016年バングラデシュでの事件にみられる通り、残念なことに世界の各地で開発支援ワーカーが危機に直面するリスクが高まっています。しかし、そのような地域に暮らす人々こそ、より困難な状況に直面しており、これらの人々を取り残さず、どのように安全を確保しながら効果的な支援を届けられるかが、今後の世界の課題になると考えられます。今回JICA基金のご支援を頂き、過去に専門的な研修に参加する機会がなかったNGOスタッフが、国連等で豊富な経験を積んだトレーナーから多くを学ぶことができました。加えて、今回育成された日本人トレーナーの働きにより、より多くのNGOが安全管理においてもプロフェッショナルとなることができるよう、これからも努力していきます。



チェックポイント通過の実技研修の様子
(写真: JaNISS)



市民ネットワーク for TICAD:東京都台東区 NGOのパワーをTICADへアフリカ啓発・提言事業

団体ホームページ: <http://afri-can-ticad.org/>

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



第1回アフリカ連続セミナー
(写真: 市民ネットワーク for TICAD)

<事業紹介>

普段、直接活動を目にすることの少ないアフリカで活動する日本のNGO/NPOを知ってもらうためにNGOダイレクトリーを作成し、様々な取り組みを紹介する連続セミナーを開催しました。ダイレクトリーには英語版109団体、日本語版110団体が掲載され、モザンビークで開催されたTICAD閣僚級会合に持参した200冊も、アフリカの団体や国際機関の人びとを中心にあつという間に配布が完了しました。現在はWebサイトで公開しているほか、各種フェスティバルなどで配布を行い、アフリカに関わる人たち、日本のNGOに興味のある国内外の人たちから好評を得ています。

<団体からの声>

地理的に遠いアフリカは、NGO活動の様子を直接伝えられる機会が少なく、あまり知られていません。今回、発行し

たダイレクトリーを手にし、海外の現場や国際機関で長く活動する人々からも、「アフリカに関わる日本の団体がこんなにあるとは知らなかった」と驚きの声があがっていました。非営利で活動する人々だけではなく、研究活動、企業活動、生活の拠点としてなど様々な形でアフリカに関わる人々、在日アフリカ人の方々などの情報源になればと願っています。また、このダイレクトリーをもとに、Webサイト版を更新しつつ、今後も長く役に立つものにしていきたいと思います。

世界の人びとのためのJICA基金2017年度収支報告(2017年4月1日～2018年3月31日)

2017年度(平成29年度) 世界の人びとのためのJICA基金寄附実績			2017年度(平成29年度)寄附金使用実績		
	件数	金額(円)		件数	金額(円)
個人	402	1,816,500	配分事業(2016年度継続分)	14案件	3,358,223
			配分事業(2017年度新規分)	12案件	10,602,700
法人・団体	29	13,408,445	運用経費* * 寄附金業務の事務経費として平成25年度寄附金収入額の10%以内を充当。	寄附金システム費 その他	986,216
合計	431	15,224,945	次年度繰越		277,806
			合計		15,224,945

2018年度 採択案件

2018年度は、以下の11の団体の活動を支援しています。
来年度もニュースレターで活動を報告させていただきます。

団体名	国名	案件名
耕志の会	インドネシア	西ジャワ州スメダン県とバンドゥン県における小規模農家の持続可能なコーヒー栽培のための研修事業
特定非営利活動法人Living in Peace	カンボジア	マイクロファイナンス機関向け教育事業
アジア歯科保健推進基金(AOHPF)	東ティモール	小児むし歯予防プログラム
国際ボランティア非営利団体 Daredemo Hero	フィリピン	セブの貧困層からリーダー育成！ 貧困問題の根本的解決を目指して
NPO法人学び舎つばさ	ベトナム	貧困地域における子どもたちへの日本語教育支援事業
特定非営利活動法人 アジアンドリーム	マレーシア	サラワク州奥地、ロングセリダン村地域周辺の焼き畑跡地として放棄されている荒廃地に植林しそれらの自然再生を図る事業
NGOネパール『虹の家』	ネパール	2015年ネパール大地震被災地の子どもたちのための復興コミュニティづくりへの支援活動
特定非営利活動法人 ミランクラブ ジャパン	ネパール	ネパール大地震で被災した子ども達への奨学金支援事業
日本ラテンアメリカ協力ネットワーク	グアテマラ	ポアキルでの貧困削減のためのマイクロクレジット事業
ニバルレキレ ～I am special!～	南アフリカ	貧困地区の若者と家族の問題解決の道標となるライフストーリーブックの作成
ハイチ友の会	ハイチ	マイクロクレジットを通じたモリンガ栽培・加工促進事業

いいね！で繋がる世界の旅！
JICA基金活用事業 実施国のJICA事務所Facebookページ

現地JICA事務所が発信している情報もぜひご覧ください。

ネパール事務所



ラオス事務所



ベトナム事務所



ニジェール事務所

ハイチ支所



カンボジア事務所



インドネシア事務所



フィリピン事務所



JICAは、独立行政法人国際協力機構（JICA／ジャイカ）は、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、約150の国と地域に対して国際協力を行っています。

HPでは、各地域・国や分野毎の取り組みも紹介しておりますので、是非ご覧ください。

[<https://www.jica.go.jp/index.html>]

また、JICAでは、国際協力を通じてSDGsに貢献していくために、その方針を「SDGs達成への貢献に向けて：JICAの取り組み」として、策定しています。詳しくは、JICAウェブサイト「SDGsの取り組み」[<https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/>]をご覧ください。

JICA寄附サイト: <https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html>



世界の人びとのためのJICA基金ニュースレター 2018.9発行
独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課
〒102-8012 東京都千代田区二番地5-25 二番町センタービル
TEL：0800-100-5931（寄附専用ダイヤル）